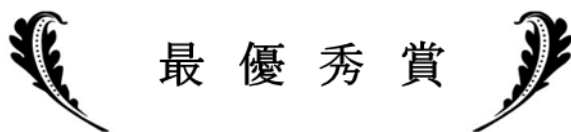


## 建設系専門学校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部



### 「将来の建設業」

東海工業専門学校金山校 土木工学科 1年

近藤 みつき

私が建設現場で働こうと思ったきっかけは二つあります。一つ目は、家族が建設業を営んでいるからです。私の父は、建設現場で現場監督をしています。私が幼い頃にダンプトラックや、バックホウに乗せてもらったことがありました。ダンプトラックは目線が高いので、他の乗用車を見下ろすことができ楽しかった思い出があります。父がダンプトラックを洗車していて私も一緒に洗ってみると、なぜかとても楽しいので洗車を手伝うようにしています。また、幼い頃に、工事現場で使われる重機のミニカーで遊んでいたこともあり、幼いころから建設業界に興味をもちはじめました。

高校生の時に、父が私に「もしかしたら、土木の仕事が向いているかもしれないよ。」と言ってくれたので、土木の勉強ができる学校に進学しようと決意しました。土木を学べる学校の男女比は圧倒的に男の子が多いです。それでも土木工学を学ぼうと思ったのは、実際の現場も男の子が多いからです。学校で女の子が少ないからと辞めていたら、社会に出ても何もできないと思ったからです。しかし、うれしいことに私の他にも女の子がいました!!! 毎日楽しく学べて最高です! やはり女の子がいてよかったなと思いました。

二つ目は、工事現場などで働く人の数が減ってきているからです。さらに、若い人材もとても少ないです。令和三年の平均年齢は、約 47.9 歳です。しかし近年では女の子の割合が増えてきています。

建設業は「3K(きつい・きたない・危険)のイメージが根強く残っています。イメージの悪さを減らすためにも、現場の環境整備は重要です。

例えば、仮設トイレや更衣室、休憩所の不衛生さは、多くの現場で問題に挙げられます。不衛生さの解消をするためにも、女の子用の仮設トイレの設置や更衣室や休憩所に空気清浄機を設置するなどがが必要です。衛生環境を改善し、女の子など従業員が使いやすい空間を用意するだけで働く人の増加につながると思います。

建設業は、私たちの生活に欠かせないインフラを整備する重要な産業です。道路、橋、ビル、住宅など、私たちが日常的に利用している施設や建物は、建設業の技術と手腕によって作られています。

建設業は、安全第一を最優先に考えています。施工中や完成後も確かな品質と安全性を追求し、利用者が安心して生活できる環境を届けることを使命としています。建物の耐震性や耐久性を高める仕組みや設計技術の進歩により、災害に強い構造物の建設にも力を入れています。

また、建設業は、地域とのつながりを大切にしています。建設業者は地域で長い時間を過ごし、地域とのパートナーシップを築いています。

地域の文化や環境に配慮し、構造物のデザインや施工方法に反映させることで、地域の景観や風土を守りながら、より良いまちづくりに貢献しています。

さらに、建設業は持続可能な社会への貢献も重視しています。エネルギー効率の高い構造物の開発や再生可能エネルギーの活用など、環境に配慮した取り組みを行っています。また、廃棄物の適切な処理やリサイクルにも力を入れ、地球環境の保護に貢献しています。

そして、建設業は雇用の創出にも大きく貢献しています。数多くの建設プロジェクトには、技術士、エンジニア、作業員など、様々な職種のスキルを持った人材が必要です。建設業は多様な雇用機会を提供し、地域経済の発展にも寄与しています。

最後に、建設業は夢や希望を実現する場であり、建築物やインフラは私たちの生活の一部であり、それを建設することで社会の発展に寄与することができます。建設業者の皆さんは、私たちの生活を支え、未来を創造する大変貴重な存在です。

私は、毎日家族のために現場で働いている父を尊敬しています。暑くても寒くても弱音をはかないので、すごいと思います。だから私も尊敬される現場監督になって家の会社を支えていきたいです。そして建設業界の良さを広めて女の子の割合を増やせるように頑張りたい。

## 建設系専門学校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部



### 「建設業界のイメージアップ」

東海工業専門学校金山校 測量設計科 1年

村田 大稀

今の建設業界を活気付けるためには、若者により建設業界について興味を持たせ知ってもらふ事と建設業界の必要性を世間に知ってもらふ事が大切だと考えます。今の建設業界の抱えている問題として、労働力人口の減少や少子高齢化により次世代の後継者が減少している点があります。今の建設業界の労働者の年齢層の割合は、55歳以上の割合が3割を超え、29歳以下の若手が1割しかいない状態です。このままではこの先10年、20年後の建設業界は人手不足や先人たちから受け継がれていた技術が失われてしまう可能性があります。建設業界は今後、必ずと言っていいほど必要で重要な職業です。この先必ず起きると言われている大きな自然災害が起こった時、震災復興はもちろん都市再生や地方創成など、我が国の活力ある未来を築くうえで大きな役割を果たし「地域の守り手」として極めて重要な役割を担っています。

若者の後継者を増やすためには、まず建設業界について良いイメージを持ち、今の建設業界を知ってもらうことが必要だと考えます。世間一般的に建設業界のイメージとして主に3K(きつい・汚い・危険)というイメージが強くあります。ですが、それは言葉通り世間が心の中で思い浮かべていることであり、実際は、今の建設業界が世間に知られていないだけだと考えます。僕は、高校の頃から測量について学んでおり、その頃は、平板測量から始まりTS(トータルステーション)を使い測量をしました。トータルステーションを始めて使ったとき、プリズムに視準してボタンを押すだけで角度と距離を同時に簡単に測定できたとき、その便利さに感動しました。ですが東海工業専門学校でより詳しく測量を学んでいく中で自習GTという器械を知りました。GTを使い観測をすると、今の測量はここまで進化しているのだと驚きと感動がありました。僕は専門学校で測量について学び今の最新の技術を知り測量に対するイメージが大きく変わりました。

このように、世間が思っている厳しい労働環境というイメージを、実際は最新技術を駆使した建設があるなど世間や若者にアピールし知ってもらふ事が重要だと思います。

世間に知ってもらうためにアピールとして多様なメディアを活用することや、広報活動を行うことが効果的だ

と考えます。テレビやCMを使い、広い視聴者層に建設業界の魅力や最新の取り組みを紹介することや、SNS(YouTube・TikTok)を利用して広めていく方法です。今の若者はテレビを見る習慣が減り、最近ではSNSを利用して様々なニュースや情報を得ている子が多くなっています。ですから、SNSを活用し建設業界の現場の様子や工事現場の裏側、最新技術の紹介などすることで多くの人たちに知ってもらえると思います。このような方法で多くの人たちに建設業界について知ってもらいます。

次に実際に建設現場や企業のオフィスを一般に公開するイベントを開催し参加してもらうことです。実際に自分の手で体験して実感してもらう方が見て聞くよりも楽しさや、感じ方が大きく変わると思うからです。僕が卒業した高校でもその様な見学会が授業であり、やはりただ話を聞くよりも実際に行き見学したり体験するほうが人の記憶に残りやすく、イメージも変わったりするので体験して直接業界の魅力を伝えていきたいです。ただの見学会やイベントだとやはり参加する人もごく一部だと思うので、普通のイベントよりも他の業界とのコラボレーションをすることでより沢山の人の興味を持ってもらえるとおもいます。僕が考えたのは今、SNSで有名で知名度のあるインフルエンサーとのコラボやVTube・アニメのキャラクターなど若者が好きなものを利用することで興味を持ってもらえると考えました。

このような、活動で若者や一般の人から興味や認知してもらえるとと思います。今はYouTuberなど自分の好きなことを仕事にして生活していける世界になってきました。始めに言ったように建設業界は無くなってはならない職業であり、今後必要となっていきます。いつ起こるかわからない自然災害や進化し続ける都市開発など必要不可欠なものです。より多くの若者に技術を継承していき建設業界を盛り上げていきたいです。

人は些細なきっかけで変わっていきます。

僕も東海工業専門学校に入学し測量について学んでいます。まだまだ、未熟で学ぶことが多くあるので、少しでも測量やそういった業界の力となれるように日々の学びを大切にしていきたいです。

そして、もし就職した時に会社の役に立てられる人になれるように今後も頑張っていきます。